

信じる、長崎力。

まえてつ通信 3rd NO. 041 2022(R4).12.26 (月)

◎今年もお世話になりました 令和5年の私の一文字は「創」



今月20日に県議会は閉会しました。最終日には435億円の補正予算も上程され可決されました。出産を迎える方への一時金(10万)・幼保他関係施設の送迎車への非常ブザーの設置・農水産業の基盤整備・国土強靱化に伴う公共工事の事業費が主となる予算でしたが、今後は物価高対策への追加予算も一日も早く国による予算化が望まれます。

今年度の本県の補正予算1045億のうち、物価高対策で146億円拠出しましたが、依然として厳しい状況の中、次なる対策を打つべきと個人質問で要望しました。「気持ちはあっても財源は国頼み」、答弁にジレンマ

を抱えつつ県単独の財源(基金の取り崩し)を使ってでも対応すべきとの意見を述べました。

コロナの感染者数が高止まりのなか、以下の質問をあえて行いました。

個人質問(一部) 感染症法での「2類相当から5類への引き下げ」について

Q 感染症法での2類から5類への引き下げを求める声は大きい。全国知事会においても知事は「最終的な出口に向けたロードマップ」を示すよう国に対して働きかけを行っている。私も妥当だと認識しているが、仮に引き下げとなった場合、懸念される課題等はどのような事が考えられるか?

A 5類感染症と同様の扱いになった場合、医療機関が限定されず通常の医療機関で発熱患者の受診が可能となる。一方で地域ごとの感染状況の把握方法の確立や、高額なケースが想定される医療費等、**5類移行には整理すべき課題がある**ものと認識。
県では、5類相当に移行した場合を想定し、**コロナ医療と通常医療の両立を目指して対応できる医療機関の拡充や見直しを進めている**ところである。

分類	例	入院勧告	外出 自粛要請	就業制限	入院場所	医療費
2類	結核	○	×	○	指定 医療機関	公費負担
2類相当	新型コロナ	○	○	○	指定 医療機関	公費負担
5類	インフル エンザ	×	×	×	一般 医療機関	自己負担 あり

現在の感染者数に過剰な心配はされなくてよいと思います。2類相当から5類に引き下げることでの懸念材料があるなか、今は「制限を課す権限を持ちつつ」県ならびに医師会他関係機関が連携し十分な対応ができる体制が整っています。今年の冬は「体力のある方は感染に気をつけながら普通の経済活動を行い、高齢者や基礎疾患のある方また医療・介護従事者の方は大変ですが引き続きゼロコロナ対応で生活して頂く」ということとなります。

感染者が多いのは検査を徹底しているからです。実はインフルエンザでも無症状の感染者がいるはずですが、しかしインフルエンザの場合は症状が強くないと病院にはかからないでしょう。それと同じですので「**恐れず日頃の感染対策の徹底**」をお願いする次第です。

本年も大変お世話になりました。穏やかな年末年始をお過ごしくださいませ。

